

医科学専攻 カリキュラム・ポリシー

医科学に関する幅広い知識を体系的、集中的に教育することにより、高度に専門化した知識と技術を身につけた医科学分野の研究者や教育者を養成し、併せて医科学を基礎として社会的諸問題を包括的に捉えることのできる人材を養成することを目的として、カリキュラムを構成する。

【教育内容】

必修科目には、科学の専門知識と方法論の原理を修得するため、基礎医学関連の科目を中心に配するとともに、より実践的な臨床医学関連の科目も含め、配置を行っている。

特別研究科目では、研究計画の立案方法をはじめ、研究を遂行するためのトランスフェラブルスキルを身につける。

医科学コースは、選択科目に、生命科学分野から人文社会科学分野にわたる多彩な医学関連科目を配置し、個々の必要性と興味に応じて、より高度な専門知識を修得する。

公衆衛生学コースは、修士（公衆衛生学）の学位を授与する国際基準（5つの方法論を必須科目とする履修）を満たしたカリキュラムを構成しており、「社会医学・医倫理学・行動科学領域」、「疫学領域」、「生物統計学領域」、「医療管理学・医療政策学・医療経済学領域」及び「環境保健学領域」の5領域に科目を配置し、知識と専門性及びパブリックヘルスマインドを修得する。

ヘルスケアイノベーションコースは、医工連携をベースとしながら、人の健康だけでなく組織、社会のヘルスケアも対象とし、柔軟で偏らない考え方でイノベーションを起こして貢献できる人材を育成する。その際、縦割りの組織や学問体系を越えて連携を取ることが必要となるため、「人と人の繋がり」に重点を置いている。医工学から組織マネジメント、イノベーション、地域医療など幅広い科目を配置し、知識と専門性を修得する。

【教育方法】

（科目履修）

学生の事情に配慮した柔軟な教育体制を敷く。専門的知識の習得のための座学や実践的なスキルを養成するための演習の他、少人数のゼミナール形式を取り入れ、昼間開講、夜間開講、週末を利用した集中講義等、多様な開講形態をとる。

（研究指導）

学生は、特別研究科目で身につけた一般的な研究遂行能力に加え、指導教員から、専門領域に応じた個別の研究指導として、研究課題・計画の立案、研究の遂行、学位論文または特定の課題の作成、論文内容の口頭発表等についての助言及び指導を受ける。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価については、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価については、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学習成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつカリキュラム評価を行う。